

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年2月16日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

いのちとくらしを守れ！ 今週土曜日 **総決起集会・パレード**

いよいよ、今週土曜日20日、いのちとくらしを守れ！総決起集会です。
(開会13時・共済ホール 札幌市中央区北4西1))
メインスピーカーの西弁護士の報告と各分野からのリレートークが行われます。集会のあとは、大通までパレードします。
是非、たくさんの参加で成功させ、声を上げましょう。



リレートークでは、医療の現場から、ケースワーカーも報告します

経済的事由で受診が遅れ5日後に亡くなる方も 北海道民医連の調査から

昨年秋、一人暮らしの57歳男性は、呼吸が苦しかったのですが、国保資格証で10割負担のため、2~3週間、受診をがまんしました。いよいよ救急車で搬送されましたが、その時、手持ち金はありませんでした。「がん」と診断され、治療をはじめましたが、5日後に亡くなりました。

地域の医療の実情に応じた医療提供体制を 釧根で地域医療を守る集会



2月7日、釧路社保協は、宮川潤道議を講師に迎えて「地域医療を守る釧根集会」を釧路市内で開催しました。遠くは根室市や標津町など、7市町村から72人が参加しました。

集会では、標茶町・根室市・釧路市から公立病院の動向などについて発言があり、「画一的な病床削減ではなく、地域の実情に応じた医療体制を求めます」との集会アピールを採択。関係機関などに送ることを確認しました。

地域医療を担う公立病院を守ることが大事

国の交付金削減総額は、道全体で5億8585万円

宮川道議は「地域医療が深刻な中、公立病院の役割を守ることが大切」と強調しました。その一方で、「国は、不採算部門も担っている公立病院に対して、黒字化プランを立てるよう迫っています。また、公立病院のある自治体への国から交付金の基準を許可ベッド数から稼働ベッド数へと変えました。例えば市立阿寒病院は2,467万円減、中標津病院は3,736万円減、全道合計では5億8,585万円もの減額です。公立病院の経営はますます大変になり、ベッド減らしにつながる可能性があります」と批判しました。

全会一致の道議会意見書を活かして

2025年の医療構想を検討する各圏域での調整会議では、地元医師会や町村の代表者などから「病床稼働率が低いのは医療需要がないからではなく、医師・看護師不足でベッドを満度に使えないから」「稼働数にベッド数を合わせるとするのは逆」等々、批判的な意見が出されています。

集会では、道議会が全会一致で採決した「診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書」を雛型に、各市町村議会で意見書を上げるよう請願・陳情すること、調整会議を傍聴し、関心が高いことを示すこと。また、夏頃には道が構想案への意見を募集するので、皆さんの声を集中することなどを呼びかけました。
(釧路社保協ニュースより)

2月21日(日)には、**地域医療を守る十勝集会** 各地でも開催しましょう